漢文訓読文の比較研究にむけて

—法華経訓読諸本八本・嘱累品の比較訓読文—

今　井　　亨

1．訓読文の比較研究

同一の原漢文を持つ典籍の訓法を比較してその異同から訓読法の対立・変遷を捉えようとする研究は，これまでにも種々に試みられてきた。

○松本光隆「真言宗における儀軌訓読語の変容—金剛界儀軌の場合を中心に—」(『訓点語と訓点資料』記念特輯（1998）・平成10年３月)。

１語序・文の断続，２音読訓読，３字訓，４助字，５読添語。

論中ではそれぞれ，１倒置文，２「諸」，３「当・応・於・等・与・従」，４格助詞の表示・「得」構文・「如」構文，の各語法について分析がなされている。

○野沢勝夫「新資料「瑞光寺本仮名書き法華経」の系統(一)～(七)」(『昭和学院短期大学紀要』25～31・平成元年３月～７年３月)，「「仮名書き法華経」小考—異系統二本の比較の試み—」(『小松英雄博士退官記念日本語学論集』・三省堂・平成５年７月)。

１漢文原典の構文的な理解を反映した相違（Ａ文の切れ続きの異同，Ｂ倒置法，Ｃ語順の相違，Ｄ語順の相違と切れ続きの異同，Ｅ再読文字の読み方)，
２語法・文体レベルでの相違（Ｆ中止の型の相違，Ｇ引用の「ト」の有無)，
３受容・翻訳のレベルでの相違（Ｈ敬語の添え読み，Ｉ助動詞の添え読み)，
４語彙的な相違（Ｊ音読か訓読か，Ｋ別訓による相違，Ｌ４字漢字の読み方)，
５特殊な語法・訓法による相違（Ｍ特殊な語法)，６その他。

訓法の異同を語学的に処理する基準として右のように項目が設定されてきたが，比較の資料が限られその分類もなお流動的であることから，訓法の異同が的確に処理されて諸資料の言語的性格や語法の時代的変遷が明確に捉えられるまでには至っていない。

法華経はその残存資料の多さから訓読語研究上格好の資料と目されている。稿者はなかで有用な訓読諸本八本をもとに訓読語の研究を指向しており，(注1) 本稿は，訓読文を一定の基準により比較分類することによって各本の訓読・言語の特徴を探ろうとする試みのもとにある。いま，これら八本に亘ってその訓読を統一的に比較できるのは，巻七の嘱累品第二十二・薬王品第二十三・妙音品第二十四のわずかに三品のみである。

本稿では，このうち嘱累品第二十二の比較訓読文を紹介し，異同の若干についても合わせ示す。

2．法華経(嘱累品)訓読文の比較

訓読文の比較に際しては，その便から私に分節化した範囲をもとに比較する方法を取る。その結果，嘱累品は全54句に分節化される（「3．比較訓読文」参照)。比較資料が八本と多く異同は多岐に亘るため，異同の総体を一度に捉え把握するよりは，分類項目毎に纏めて捉えてゆくのが適当と思われる。そこでまずは，文の断続に関する異同について見る。

【1諸本間に異同無し句】

比較範囲全54句中，諸本八本に異同の認められない句は7句［分節句No.＝1・30・32・39・43・50・52］で，体言句を中心としている。

このうち［30］は，「汝等」の訓の変遷を認めるかどうかであるが，各用例の訓の確定は難しい。「汝等」は法華経中に全95回用いられている。諸本の確訓例は次の通りである（括弧内は用例数と加点訓例)。

①龍本…確訓例ナシ（70例）

②立本…確訓例ナシ（55）

③光本…ナムタチ（39，汝等(ナムタチ)・汝等(ナンタチ)・汝等(タチ)・汝等(チ)）

④瑞本…ナムタチ（26，なむたち・なんたち）

⑤妙本…ナムタチ（90，なむたち・なんたち・汝等(なんたち)）ナムチラ（3，なんぢ等(ら)・汝等(なむじら)・汝等(なむちら)）

⑥倭本…ナムタチ（6，汝等(ナムタチ)・汝等(チ)）ナムチラ（15，汝等(ナムチラ)・汝等(チラ)・汝等(ウ)・汝等(チ)）

⑦段本…ナムタチ（17，汝等（ナンタチ）・汝等（チ））

⑧佼本…ナムタチ（2，汝等（なんだら））ナムチラ（28，なんぢら・なんじら・汝等（なんじら）・汝等（なんぢら）・汝ら・なんじ等　＊濁点ナシ例も含む）

嘱累品中ほかに［14・21］にも「汝等」が用いられており，［21］⑥倭本には「汝等（ラ）」とある。確かに，⑤妙本でも「ナムチラ」の3例は江戸期の補写部における訓であり，ここに字訓の変遷を窺うこともできようが，⑦段本の確例は「ナムタチ」のみであり，⑥⑧本にもわずかながら依然「ナムタチ」の訓が存している。このことから，「汝等」の訓は，「コト＋得」・「雨」動詞訓・「如是＋体言句」(注2)ほど明確には時代的変化が捉えにくく，諸本異同無しと認めてここに含める。

また，［30］⑧佼本は，原文の「能」を脱するが，訓法上の比較とは別問題であるので本項で指摘するにとどめる。

［50・52］では，①龍本が並立する体言句に「と」を補読している。これは「及」の訓法と関わるが，②立本でも「と」のある訓法とない訓法とが併存して見られることから，(注3)殊更に訓法の統一を図って考える必要はないと思われる。

【2文の断続に関する異同句】

文の断続に関する異同は全11句［2・3・6・12・16・17・18・21・27・34・36］に認められる。これら文の断続の異同によって本文の解釈上に決定的な差が認められる例はないと思われるが，各句における文の断続と諸本との関係を示すと次〔表〕の通りである（表中数字は用例数［分節句No.］）。

〔表〕文の断続に関する異同（嘱累品）・諸本用例分布

諸	文中止	文終止
①龍本	9［3・6・12・16・17・21・27・34・36］＊	2［2・18］
②立本	7［2・3・6・12・21・34・36］	4［16・17・18・27］
③光本	10［3・6・12・16・17・18・21・27・34・36］	1［2］
④瑞本	2［2・17］	9［3・6・12・16・18・21・27・34・36］
⑤妙本	3［3・17・36］	8［2・6・12・16・18・21・27・34］
⑥倭本	6［2・3・16・18・34・36］	5［6・12・17・21・27］
⑦段本	6［3・16・17・18・34・36］	5［2・6・12・21・27］
⑧佼本	6［3・16・17・18・34・36］	5［2・6・12・21・27］

＊①龍本［16・27］は，補読に拠る文中止例。

また，嘱累品における各本の文の数は次の通りである（「3．嘱累品比較訓読文」の句点に拠る）。

①龍本…24文，②立本…26文，③光本…24文，④瑞本…31文，⑤妙本…30文，⑥倭本…27文，⑦段本…27文，⑧佼本…27文

これによれば，平安期点本の中でも③光本が一文が長いのに対して，④⑤仮名書き本の単文化の傾向が看取される。また⑧佼本は，仮名書き本であるが文の断続に関しては⑦段本と全同であり，数値的に見ても訓点諸本にちかく，④⑤の早い時期の仮名書き本とは一線を画していることが窺える。

*

以上，八本の嘱累品の訓読の異同のうち，八本とも全同の句と文の断続に関する異同の句について若干触れた。取り上げた範囲が少ないこともあり考察としてはなお不充分であるが，さらに薬王品・妙音品を通して種々の比較基準から各本の訓読の様相をいずれ明らかにしたい。

訓読文の比較研究を進めてゆくにあたって，依拠する資料を提示しておくことも，考察の手順を示す上で必要であると考え，以下には，法華経訓読諸本八本の嘱累品についての比較訓読文を掲げる。

注

（1）拙稿「法華経訓読諸本考―「得」「雨」「如是」訓法の比較―」（『名古屋大学国語国文学』83・平成10年12月）。

（2）注（1）拙稿。

（3）門前正彦「立本寺蔵妙法蓮華経古点」（『訓点語と訓点資料』別刊第四・昭和43年12月）155頁。

3．嘱累品比較訓読文

〔凡例〕

- 本資料は，法華経の嘱累品第二十二についての，法華経訓読諸本八本の比較訓読文である。
- 法華経本文は，通行の章句をもとに私に全54句に分節した。［ ］に分節句の通

番と原漢文本文を示し，当該訓読文を①～⑧の順に示した。法華経訓読諸本八本（①龍光院本・②立本寺本・③伝光明本・④瑞光寺本・⑤妙一本・⑥倭点本・⑦文段経本・⑧佼成本）については，拙稿「法華経訓読諸本考―「得」「雨」「如是」訓法の比較―」（『名古屋大学国語国文学』83・平成10年12月）を参照。

・既公表の解読文からの引用は，原則として依拠した文献の記述に従ったが，比較の統一上一部私に表記法を改めた部分もある。

・原資料に用いられた訓読符・音読符は，それぞれ［訓］・［音］として漢字の後に注した。

・読点は，私に便宜上付したにすぎない。

妙法蓮華経嘱累品第二十二

［1］尓時釈迦牟尼仏。

①龍）尓（の）時（に），釈迦牟尼仏，

②立）尓（の）時に，釈迦牟尼仏，

③光）尓時ニ，釈迦牟尼仏，

④瑞）そのときに，釈迦牟尼仏，

⑤妙）そのときに，釈迦牟尼仏，

⑥倭）尓ノ時ニ，釈迦牟尼仏，

⑦段）尓時ニ，釈迦牟尼仏，

⑧佼）尓時に，釈迦牟尼仏，

［2］従法座起現大神力。

①龍）法座（より）〔従〕起（ち）て，大神力を現（し）たまふ。

②立）法座従（り）起（ち）て，大神力を現して，

③光）法座従（ヨ）リ起（タ）チテ，大神力ヲ現タマフ。

④瑞）法座よりたて，大神力を現して，

⑤妙）法座よりたちて，大神力を現したまふ。

⑥倭）法座従リ起（タ）テ，大神力ヲ現シタマヒテ，

⑦段）法座従リ起テ，大神力ヲ現シタマフ。

⑧佼）法座より起（たち）て，大神力を現じ給ふ。

[3] 以右手摩無量菩薩摩訶薩頂。

①龍）右の手を以（て）無量の菩薩・摩訶薩の頂を摩（て）て，

②立）右の手を以（て）無量の菩薩・摩訶薩の頂を摩（ナ）テタマヒテ，

③光）右ノ手ヲ以テ無量ノ菩薩・摩訶薩ノ頂（イタヽキ）ヲ摩（ナ）テヽ，

④瑞）右のみてをもて無量の菩薩・摩訶薩のいたゝきをなて給ふ。

⑤妙）みきのみてをもて無量の菩薩・摩訶薩のいたたきをなてて，

⑥倭）右ノ手（ミテ）ヲ以テ無量ノ菩薩・摩訶薩ノ頂（イタヽキ）ヲ摩（ナ）テヽ，

⑦段）右ノ手（ミテ）ヲ以テ無量ノ菩薩・摩訶薩ノ頂ヲ摩テヽ，

⑧佼）右（みぎ）の手をもて無量の菩薩・摩訶薩のいたゞきを摩（なで）て，

[4] 而作是言。

①龍）而も是の言を作（したまは）く，

②立）而も是の言を作（し）タマハク，

③光）而是ノ言ヲ作タマハク，

④瑞）しかうしてこの言をなしたまはく，

⑤妙）この言をなしたまはく，

⑥倭）而是ノ言（コトハ）ヲ作ハク，

⑦段）而是ノ言ヲ作タマハク，

⑧佼）この言葉（ことば）をなし給はく，

[5]「我於無量百千万億阿僧祇劫。

①龍）「我（れ），無量百千万億阿僧祇の劫（に）〔於〕，

②立）「我レ，無量百千万億阿僧祇の劫に〔於〕，

③光）「我カ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

④瑞）「われ，無量百千万億阿僧祇劫において，

⑤妙）「われ，無量百千万億阿僧祇劫に，

⑥倭）「我レ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

⑦段）「我レ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

⑧佼）「我，無量百千万億阿僧祇劫において，

[6] 修習是難得阿耨多羅三藐三菩提法。

①龍）是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修習して，

②立）是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修-習して，

③光）是ノ得難キ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修-習セル，

④瑞）このえかたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。

⑤妙）このえかたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。

⑥倭）是ノ難得ノ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修習セリ。

⑦段）是ノ得難キ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修習セリ。

⑧佼）このゑがたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。

[7] 今以付嘱汝等。

①龍）今（これを）以（て），汝等に付嘱す。

②立）今以て，汝等に付-嘱す。

③光）今以テ，汝_等ニ付-嘱ス。

④瑞）いまもて，なんたちに付嘱す。

⑤妙）いまもて，なんたちに付属す。

⑥倭）今以テ，汝等ニ付嘱ス。

⑦段）今［訓］以［訓］テ，汝_等ニ付-嘱ス。

⑧佼）今以，汝等に附属す。

[8] 汝等応当一心流布此法広令増益」。

①龍）汝等，当に心を一（にし）て，此（の）法を流布（し）て，広（く）増益（せ）令（む）応（し）。」。

②立）汝等，当に心を一（に）して，此の法を流-布して，広ク増-益（せ）令ム応シ。」。

③光）汝_等，当ニ心ヲ一ニシテ，此ノ法ヲ流-布シテ，広ク増-益セ令ム応シ。」ト。

④瑞）なんたち，まさに一心にして，この法を流布して，ひろく増益せしむへし。」と。

⑤妙）なんたち，まさにこころをひとつにして，この法を流布し，ひろく増益せしむへし。」。

⑥倭）汝等，当ニ心一ニシテ，此ノ法ヲ流布シテ，広ク増益セ令ム応シ。」。

⑦段）汝_等，応_当ニ一-心ニ，此ノ法ヲ流-布シテ，広ク増益セ令ム応_当シ。」。

⑧佼）汝等，まさに心をひとつにして，此法を流布(るふ)して，広く増益(ぞうやく)せしむべし。」。

[9] 如是三摩諸菩薩摩訶薩頂。

①龍）是（くの）如（く），三（た）ひ，諸の菩薩・摩訶薩の頂を摩（て）て，

②立）是（の）如ク，三タヒ，諸の菩薩・摩訶薩の頂を摩（て）タマヒテ，

③光）是如ク，三(ミ)タヒ，諸ノ菩薩・摩訶薩ノ頂ヲ摩(ナ)テヽ，

④瑞）かくのことく，三たひ，もろゝゝの菩薩・摩訶薩のいたゝきをなてゝ，

⑤妙）かくのことく，みたひ，もろもろの菩薩・摩訶薩のいたたきをなてて，

⑥倭）是如ク，三ヒ，諸ノ菩薩・摩訶薩ノ頂キヲ摩(ナ)テヽ，

⑦段）是如ク，三ヒ，諸ノ菩薩・摩訶薩ノ頂ヲ摩テヽ，

⑧佼）かくの如(ごと)く，三たび，諸の菩薩・摩訶薩の頂(いたゞき)をなでゝ，

[10] 而作是言。

①龍）〔而〕是（の）言を作（したまは）く，

②立）而も是の言を作（し）タマハク，

③光）而是ノ言ヲ作タマハク，

④瑞）しかうしてこの言をなしたまはく，

⑤妙）この言をなしたまはく，

⑥倭）而是ノ言ヲ作サク，

⑦段）而是ノ言ヲ作タマハク，

⑧佼）このことばをなし給はく，

[11]「我於無量百千万億阿僧祇劫。

①龍）「我（れ），無量百千万億阿僧祇の劫（に）〔於〕，

②立）「我レ，無量百千万億阿僧祇の劫に〔於〕，

③光）「我カ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

④瑞）「われ，無量百千万億阿僧祇劫において，

⑤妙）「われ，無量百千万億阿僧祇劫に，

⑥倭）「我レ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

⑦段）「我レ，無量百千万億阿僧祇劫ニ於テ，

⑧佼）「我，無量百千万億阿僧祇劫において，

[12] 修習是難得阿耨多羅三藐三菩提法。

①龍）是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修習して，

②立）是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修-習して，

③光）是ノ得難(エカタ)キ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修-習セル，

④瑞）このえかたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。

⑤妙）このえかたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。

⑥倭）是ノ難得ノ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修-習セリ。

⑦段）是ノ得難キ阿耨多羅三藐三菩提ノ法ヲ修-習セリ。

⑧佼）この得がたき阿耨多羅三藐三菩提の法を修習(しゅじう)せり。

[13] 今以付嘱汝等。

①龍）今（これを）以（て），汝等に付嘱す。

②立）今以て，汝等に付嘱す。

③光）今以テ，汝_等ニ付-嘱ス。

④瑞）いまもて，なんたちに付嘱す。

⑤妙）いまもて，なんたちに付嘱す。

⑥倭）今以テ，汝等(チラ)ニ付-嘱ス。

⑦段）今以テ，汝_等ニ付-嘱ス。

⑧佼）今以(もつて)，汝等に附嘱(ふぞく)す。

[14] 汝等当受持読誦広宣此法令一切衆生普得聞知。

①龍）汝等，当に受持し読誦し，広（く）此（の）法を宣（へ）て，一切衆生を（し）て普（く）聞知（す）ること得令（む）当し。

②立）汝等，当に受持し読誦し，広ク此の法を宣(ノ)へて，一切衆生をして普ク聞(キ)、知ること得令(シ)ム当(ヘ)シ。

③光）汝_等，受-持読-誦シ，広ク此ノ法ヲ宣(ノ)ヘテ，一切衆生ヲシテ普(アマネ)ク聞キ知(シ)ルコト得(エ)令(シ)ム当(ヘ)シ。

④瑞）なんたち，まさに受持し読誦し，ひろくこの法をのへて，一切衆生をしてあまねくきゝしることえしむへし。

⑤妙）なんたち，まさに受持読誦し，ひろくこの法をのへて，一切衆生をしてあまねく聞知することえしむへし。

⑥倭）汝等，当ニ受持シ読誦シテ，広ク此ノ法ヲ宣(ノ)ヘテ，一切衆生ヲ令(シ)テ普ク

聞-知スルコトヲ得令ム当シ。

⑦段）汝等，当ニ受持読誦シ，広ク此ノ法ヲ宣テ，一切衆生ヲ令テ普聞-知スルコトヲ得令当シ。

⑧佼）汝等，当受持し読誦して，広くこの法を宣て，一切衆生おして普く聞知することを得せしむべし。

[15] 所以者何。

①龍）所以者何（に），

②立）所以者何，

③光）所以者何，

④瑞）ゆへいかんとならは，

⑤妙）ゆへはいかん，

⑥倭）所_以者_何ナレハ，

⑦段）所_以ハ者何ン，

⑧佼）ゆへいかんとなれば，

[16] 如来有大慈悲。

①龍）如来は大慈悲有（し），

②立）如来は大慈悲有ス。

③光）如来大慈悲有丶テ，

④瑞）如来は大慈悲ます。

⑤妙）如来は大慈悲まします。

⑥倭）如来ハ大慈悲有丶テ，

⑦段）如来ハ大慈悲有テ，

⑧佼）如来は大慈悲ましゝゝて，

[17] 無諸慳悋。

①龍）諸の慳悋無く，

②立）諸の慳-悋無し。

③光）諸ノ慳-悋無ク，

④瑞）もろゝゝの慳悋なく，

⑤妙）もろもろの慳悋なく，

⑥倭）諸ノ慳-悋無シ。

⑦段）諸ノ慳悋無ク，

⑧佼）諸の慳悋なく，

[18] 亦無所畏。

①龍）亦所畏無し。

②立）亦所-畏無し。

③光）亦所-畏無クシテ，

④瑞）また所畏なし。

⑤妙）またおそるるところなし。

⑥倭）亦畏ルヽ所無クシテ，

⑦段）亦畏ルヽ所無シテ，

⑧佼）亦畏るゝ所なくして，

[19] 能与衆生仏之智恵如来智恵自然智恵。

①龍）能（く）衆生に仏（の）〔之〕智恵と如来の智恵と自然の智恵とを与（へ）たまふ。

②立）能ク衆生に仏の〔之〕智恵と如来の智恵と自然の智恵とを与ヘタマフ。

③光）能ク衆生ニ仏之智恵・如来ノ智恵・自然ノ智恵ヲ与ヘタマフ。

④瑞）よく衆生に仏の智恵・如来の智恵・自然の智恵をあたへ給ふ。

⑤妙）よく衆生にほとけの智恵・如来の智恵・自然の智恵をあたへたまふ。

⑥倭）能ク衆生ニ仏ノ〔之〕智恵・如来ノ智恵・自然ノ智恵ヲ与ヘタマフ。

⑦段）能ク衆生ニ仏ノ〔之〕智恵・如来ノ智恵・自然ノ智恵ヲ与フ。

⑧佼）能衆生に仏の智恵・如来の智恵・自然の智恵をあたへ給ふ。

[20] 如来是一切衆生之大施主。

①龍）如来も是（れ），一切衆生（の）〔之〕大施主なり。

②立）如来は是レ，一切衆生の〔之〕大施主なり。

③光）如来是レ，一切衆生之大施主ナリ。

④瑞）如来はこれ，一切衆生の大施主なり。

⑤妙）如来はこれ，一切衆生の大施主なり。

⑥倭）如来ハ是レ，一切衆生ノ〔之〕大施主ナリ。

⑦段）如来ハ是レ，一切衆生ノ〔之〕大施主ナリ。

⑧佼）如来は是，一切衆生の大施主なり。

[21] 汝等亦応随学如来之法。

①龍）汝等（も），亦〔応〕随（ひ）て如来（の）〔之〕法を学して

②立）汝等，亦随（ひ）て如来の〔之〕法を学して

③光）汝_等モ，亦随テ如来之法ヲ学シテ

④瑞）なんたち，またしたかふて如来の法を学すへし。

⑤妙）なんたち，またしたかひて如来の法を学すへし。

⑥倭）汝_等，亦随テ如来ノ〔之〕法ヲ学ス応シ。

⑦段）汝_等，亦［訓］随テ如来ノ〔之〕法ヲ学ス応シ。

⑧佼）汝等，亦随て如来の法を学すべし。

[22] 勿生慳悋。

①龍）慳悋を生（すること）勿。

②立）慳-悋を生スコト勿カル応シ。

③光）慳-悋ヲ生スコト勿カル応ケレハナリ。

④瑞）慳悋をなすことなかれ。

⑤妙）慳悋をなすことなかれ。

⑥倭）慳悋ヲ生スルコト勿レ。

⑦段）慳悋ヲ生スルコト勿レ。

⑧佼）慳悋を生することなかれ。

[23] 於未来世。

①龍）未来世（に）〔於〕，

②立）未来の世に〔於〕，

③光）未来世ニ於テ，

④瑞）未来世に，

⑤妙）未来世に，

⑥倭）未来世ニ於テ，

⑦段）未来世ニ於テ，

⑧佼）未来世において，

[24] 若有善男子善女人。

①龍）若（し），善男子・善女人有（り）て，

②立）若（し），善男子・善女人有（り）て，

③光）若，善男子・善女人ノ，

④瑞）もし，善男子・善女人ありて，

⑤妙）もし，善男子・善女人の，

⑥倭）若シ，善男子・善女人有テ，

⑦段）若シ，善男子・善女人有テ，

⑧佼）若，善男子・善女人有て，

[25] 信如来智恵者。

①龍）如来の智恵を信せ者（は），

②立）如来の智恵を信せむ者（モノ）には，

③光）如来ノ智恵ヲ信スル者（モノ）有（ア）ラハ，

④瑞）如来の智恵を信せんものには，

⑤妙）如来の智恵を信するあらは，

⑥倭）如来ノ智恵ヲ信セム者（ノ）ハ，

⑦段）如来ノ智恵ヲ信ン者ニハ，

⑧佼）如来の智恵を信（しん）ぜん者には，

[26] 当為演説此法華経使得聞知。

①龍）為に此（の）法華経を演説（し）て，聞知（す）ること得使（む）当（し）。

②立）当に為（与也）に此の法華経を演-説して，聞き知ルこと得使（シ）ム当（へ）シ。

③光）当ニ為ニ此ノ法華経ヲ演-説シテ，聞キ知コト得（エ）使（シ）ム当シ。

④瑞）まさにためにこの法華経を演説して，きゝしることえしむへし。

⑤妙）まさにためにこの法華経を演説して，聞知することえしむへし。

⑥倭）当ニ為メニ此ノ法華経ヲ演説シテ，聞-知スルコトヲ得使（シ）ム当シ。

⑦段）当ニ為（与）ニ此ノ法華経ヲ演-説シテ，聞知コトヲ得使ム当シ。

⑧佼）まさに為に，此法華経を演説（えんぜつ）して，聞知（もんち）することを得せしむべし。

[27] 為令其人得仏恵故。

①龍）其人を（し）て，仏恵を得令（むる）を為（以也）（て）の故（に），

②立）其の人をして，仏恵を得令ムルヲを為（て）の故なり。

③光）其ノ人ヲシテ，仏恵ヲ得令メムカ為ノ故ニ，

④瑞）その人をして，仏恵をえしめんかためのゆへなり。

⑤妙）そのひとをして，仏恵をえしめんかためのゆへなり。

⑥倭）其ノ人ヲ令テ，仏恵ヲ得令メムカ為メノ故ナリ。

⑦段）其ノ人ヲシテ，仏恵ヲ得令ンカ為ノ故ナリ。

⑧佼）其人をして，仏恵を得せしめんが為のゆへなり。

[28] 若有衆生不信受者。

①龍）若（し），衆生有（り）て，信受（せ）不者，

②立）若（し），衆生有（り）て，信受（せ）不ラム者をは，

③光）若，衆生ノ，信-受不ル者有ラハ，

④瑞）もし，衆生ありて，信受せさらむものをは，

⑤妙）もし，衆生の，信受せさるあらは，

⑥倭）若シ，衆生有テ，信受セ不ハ〔者〕，

⑦段）若［訓］，衆生有テ，信受セ不ラン者ニハ，

⑧佼）若，衆生有て，信受せざらん者には，

[29] 当於如来余深法中示教利喜。

①龍）当に，如来（の）余の深法の中（に）〔於〕，示教利喜（す）へし。

②立）当に，如来の余の深-法の中にして〔於〕，示-教し利-喜す当シ。

③光）当ニ，如来ノ余深法ノ中ニ於テ，示-教利-喜ス当シ。

④瑞）まさに，如来の余深法の中にして，示教利喜すへし。

⑤妙）まさに，如来の余の深法のなかにをきて，示教利喜すへし。

⑥倭）当ニ，如来ノ余ノ深法ノ中ニ於テ，示教利喜ス当シ。

⑦段）当ニ，如来ノ余ノ深-法ノ中ニ於テ，示教利喜ス当シ。

⑧佼）まさに，如来の余の深法の中において，示教利喜すべし。

[30] 汝等若能如是。

①龍）汝等，若（し）能（く）是（くの）如（く）せは，

②立）汝等，若（し）能ク是（の）如クセハ，

③光）汝_等，若能ク是如クセハ，

④瑞）なんたち，もしよくかくのことくせは，

⑤妙）なんたち，もしよくかくのことくせは，

⑥倭）汝等，若シ能ク是如セハ，

⑦段）汝等，若能ク是如セハ，

⑧佼）汝等，若かくのごとくせば，

[31] 則為已報諸仏之恩」。

①龍）則（ち），為れ已に諸仏（の）〔之〕恩を報（し）たてまつるなり。」と。

②立）則，為(是也)レ已に諸仏の〔之〕恩を報（し）タテマツルなり。」。

③光）則，已ニ諸仏之(ノ)恩(ヲン)ヲ報(ホウ)シタテマツルニ為(ナ)リナム。」ト。

④瑞）すなはち，すてに諸仏の恩を報しつとす。」と。

⑤妙）すなはち，すてに諸仏の恩を報したてまつるとす。」。

⑥倭）則チ，已ニ諸仏ノ〔之〕恩ヲ報シタテマツルト為(ス)。」。

⑦段）則チ，為(是コレ)已ニ諸仏ノ〔之〕恩［音］ヲ報［音］スルナリ。」。

⑧佼）則，すでに諸仏の恩(おん)を報(ほう)じ奉とす。」。

[32] 時諸菩薩摩訶薩。

①龍）時に，諸の菩薩・摩訶薩，

②立）時に，諸の菩薩・摩訶薩，

③光）時ニ，諸ノ菩薩・摩訶薩，

④瑞）ときに，もろゝゝの菩薩・摩訶薩，

⑤妙）ときに，もろもろの菩薩・摩訶薩，

⑥倭）時ニ，諸ノ菩薩・摩訶薩，

⑦段）時ニ，諸ノ菩薩・摩訶薩，

⑧佼）時に，諸の菩薩・摩訶薩，

[33] 聞仏作是説已。

①龍）仏の，是（の）説を作し已（り）たまふを聞（きたま）へて，

②立）仏の，是の説を作(ナ)シタマフヲ聞き已（り）て，

③光）仏ノ，是ノ説ヲ作(ナ)シタマフヲ聞キ已テ，

④瑞）仏の，この説をなしたまふをきゝおはて，

⑤妙）ほとけの，この説をなしたまふをききをはりて，

⑥倭）仏ノ，是ノ説ヲ作シタマフヲ聞(キ)丶已テ，

⑦段）仏ノ，是ノ説ヲ作タマフヲ聞(キ)丶已テ，

⑧佼）ほとけの，この説をなし給ふを聞おわりて，

［34］皆大歓喜遍満其身。

①龍）皆大（き）に歓喜（す）ること，其（の）身に遍満（し）て，

②立）皆大に歓喜すること，其の身に遍-満して，

③光）皆大ニ歓-喜スルコト，其ノ身ニ遍-満シテ，

④瑞）みなおほきに歓喜すること，その身に遍満しぬ。

⑤妙）みなおほきなる歓喜，そのみに遍満しぬ。

⑥倭）皆大ニ歓喜スルコト，其ノ身ニ遍満シ，

⑦段）皆［訓］大-歓-喜，其ノ身ニ遍-満シテ，

⑧佼）皆大に歓喜すること，其身に遍満(へんまん)して，

［35］益加恭敬曲躬低頭。

①龍）益(マス、)恭敬を加（へ）て，躬を曲め，頭を低（くし）て，

②立）益(マス、)恭敬を加へて，躬(身也)を曲(カ、)メ，頭へを低(タ)レて，

③光）益(マス、)恭敬スルコトヲ加(クハ)へテ，躬(ミ)ヲ曲(マ)ケ，頭(カウヘ)ヲ低(タ)レ，

④瑞）ますゝゝ恭敬をくはへて，身をかゝめ，かうへをたれ，

⑤妙）ますます恭敬をくはへて，みをまけ，かうへをたれ，

⑥倭）益(マス、)恭敬ヲ加へテ，躬(ミ)ヲ曲(マ)ケ，頭ヲ低(タ)レテ，

⑦段）益(マス、)恭敬ヲ加へ，躬ヲ曲ケ，頭ヲ低(タ)レ，

⑧佼）ますゝゝ恭敬(くぎやう)をくわへ，躬(み)を曲(まげ)，頭(かうべ)を低(たれ)，

［36］合掌向仏俱発声言。

①龍）掌を合せ，仏に向（ひ）て，俱に声を発（し）て，言(まう)さ（く），

②立）掌を合せ，仏に向（ひ）タテマツリて，俱に声を発して，言サク，

③光）掌(タナコヽロ)ヲ合(アハ)セテ，仏ニ向(ムカ)ヒタテマツリテ，俱(トモ)ニ声ヲ発(ヲコ)シテ，言(マウ)サク，

④瑞）合掌して，ほとけにむかひたてまつる。ともにこゑをおこして，まうさく，

⑤妙）たなこころをあはせ，ほとけにむかひたてまつりて，ともにこゑをおこして，まうさく，

⑥倭）掌ヲ合テ，仏向タテマツリテ，俱ニ声ヲ発シテ，言サク，

⑦段）合掌シテ，仏ニ向タテマツリテ，倶ニ声ヲ発シテ，言サク，

⑧佼）掌を合て，仏に向ひ奉て，倶に声を発(おこ)して，もふさく，

[37]「如世尊勅当具奉行。

①龍）「世尊の勅（し）たまふか如（く），当に具に奉行す当し。

②立）「世尊の勅しタマフか如ク，当に具（さ）に奉-行す当(へ)シ。

③光）「世尊ノ勅(チヨク)ノ如ク，当ニ具(ツフ)サニ奉-行ス当シ。

④瑞）「世尊の勅のことく，まさにつふさに奉行すへし。

⑤妙）「世尊の勅のことく，まさにつふさに奉行すへし。

⑥倭）「世尊ノ勅ノ如ク，当ニ具奉行ス当シ。

⑦段）「世尊ノ勅［音］ノ如ク，当ニ具ニ奉行ス当シ。

⑧佼）「世尊の勅(ちよく)のごとく，当(まさ)に具(つぶさ)に奉行すべし。

[38] 唯然世尊願不有慮」。

①龍）唯(う)（る）然なり，世尊，願（はく）は慮（ひ）たまふこと有(いま)さ不（れ）［し］。」。

②立）唯（し）然なり，世尊，願（はく）は慮(オホ)シハカルこと有ラ不レ。」ト。

③光）唯シ然(シカ)ナリ，世尊，願慮(オモ)ヒハカリタマフコト有(ア)ラ不(サ)レ。」ト。

④瑞）たゝししかなり，世尊，ねかはくはうらおもふたまふこといませされ。」。

⑤妙）たたししかなり，世尊，ねかはくはうらおもふたまふことましまさされ。」。

⑥倭）唯(タヘ)然ナリ，世尊，願ハ慮(ウラヲモ)ヒシタマフコト有ラ不レ。」。

⑦段）唯-然，世尊，願ハ慮シタマフコト有(イマ)サ不レ。」。

⑧佼）唯(たど)しからば，世尊，ねがはくは慮(うらおもひ)し給ふこといまさゞれ。」。

[39] 諸菩薩摩訶薩衆。

①龍）諸の菩薩・摩訶薩衆，

②立）諸の菩薩・摩訶薩衆，

③光）諸ノ菩薩・摩訶薩衆，

④瑞）もろゝゝの菩薩・摩訶薩衆，

⑤妙）もろもろの菩薩・摩訶薩衆，

⑥倭）諸ノ菩薩・摩訶薩衆，

⑦段）諸ノ菩薩・摩訶薩衆，

⑧佼）諸の菩薩・摩訶薩衆，

[40] 如是三反俱発声言。

①龍）是（くの）如（く），三反り俱に声を発（し）て言さく，

②立）是（の）如ク，三反俱に声を発（して）言サク，

③光）是如ク，三反俱ニ声ヲ発テ言サク，

④瑞）かくのことく，三反ともにこゑをおこしてまうさく，

⑤妙）かくのことく，三反ともにこゑをおこしてまうさく，

⑥倭）是ノ如ク，三反俱ニ声ヲ発シテ言サク，

⑦段）是如ク，三反俱ニ声ヲ発シテ言ク，

⑧佼）かくの如（ごと）く，三反（べん）俱に声を発してもふさく，

[41]「如世尊勅当具奉行。

①龍）「世尊の勅（したまふ）［たてまつる］か如（く），具に奉行（す）当（し）。

②立）「世尊の勅（し）タマフカ如ク，当に具（さ）に奉-行す当（へ）シ。

③光）「世尊ノ勅ノ如ク，当ニ具ニ奉-行ス当シ。

④瑞）「世尊の勅のことく，まさにつふさに奉行すへし。

⑤妙）「世尊の勅のことく，まさにつふさに奉行すへし。

⑥倭）「世尊ノ勅ノ如ク，当ニ具サニ奉行ス当シ。

⑦段）「世尊ノ勅ノ如ク，当ニ具ニ奉行ス当シ。

⑧佼）「世尊の勅（ちよく）のごとく，まさに具（つぶさ）に奉行（ふぎやう）すべし。

[42] 唯然世尊願不有慮」。

①龍）唯（う）（る）然なり，世尊，願（はく）は慮（ひ）たまふこと有（さ）不れ。」。

②立）唯（し）然なり，世尊，願（はく）は慮（オホ）シハカルこと有ラ不レ。」ト。

③光）唯シ然（シカ）ナリ，世尊，願（ネカ）ハクハ慮コト有不レ。」ト。

④瑞）たゝししかなり，世尊，ねかはくはうらおもふ給ふこといませされ。」と。

⑤妙）たたししかなり，世尊，ねかはくはうらおもひたまふことましまさされ。」。

⑥倭）唯（タヽ）然ナリ，世尊，願クハ慮コト有不レ。」。

⑦段）唯-然，世尊，願ハ慮シタマフコト有（イ）サ不レ。」。

⑧佼）唯（たゞ）しからば，世尊，願（ねがは）くは慮（うらおもひ）したまふこといまさゞれ。」。

[43] 尓時釈迦牟尼仏。

①龍）尓（の）時（に），釈迦牟尼仏，

②立）尓（の）時に，釈迦牟尼仏，

③光）尓時ニ，釈迦牟尼仏，

④瑞）そのときに，釈迦牟尼仏，

⑤妙）そのときに，釈迦牟尼仏，

⑥倭）尓ノ時ニ，釈迦牟尼仏，

⑦段）尓時ニ，釈迦牟尼仏，

⑧佼）尓時に，釈迦牟尼仏，

［44］令十方来諸分身仏各還本土。

①龍）十方より来（り）たまへる，諸の分身の仏を（し）て，各（の）本土に還（ら）令（めたまはむ）と（して）［なり］，

②立）十方より来（り）タマヘル，諸の分身の仏をして，各本土に還ヘラ令（め）タマハムとして，

③光）十方ヨリ来タマヘル，諸ノ分身ノ仏ヲシテ，各本土ニ還（カヘ）ラ令（シ）メムトシテ，

④瑞）十方よりきたゝまへる，もろゝゝの分身の仏をして，おのゝゝ本土にかへらしめたまへんとして，

⑤妙）十方よりきたりたまへる，もろもろの分身のほとけをして，をのおの本土にかへらしめたまはんとして，

⑥倭）十方ヨリ来タマヘル，諸ノ分身ノ仏ヲ令（シ）テ，各ノ本土ニ還ラ令（シ）メタマハムトシテ，

⑦段）十方ヨリ来タマヘル，諸ノ分身ノ仏ヲシテ，各ノ本土ニ還ラ令メントシテ，

⑧佼）十方より来給へる，諸の分身（ぶんしん）の仏おして，各本土（おのゝゝほんど）に還（かへ）らしめ給はんとして，

［45］而作是言。

①龍）而も是（の）言を作（したまは）く，

②立）而も是の言を作（し）タマハク，

③光）而是ノ言ヲ作タマハク，

④瑞）しかうしてこの言をなし給はく，

⑤妙）この言をなしたまはく，

⑥倭）而是ノ言ヲ作シタマハク，

⑦段）而是ノ言(ミコト)ヲ作タマハク，

⑧佼）このみことをなし給はく，

[46]「諸仏各随所安。

①龍）「諸仏は，各（の）所安に随（ひ）たまへ。

②立）「諸仏は，各所-安に随（ひ）タマへ。

③光）「諸-仏，各所-安ニ随(シタカ)へタマフ。

④瑞）「諸仏，おのゝゝ所安にしたかひ給へ。

⑤妙）「諸仏，おのをの所安にしたかひたまへ。

⑥倭）「諸仏，各ノ所安ニ随ヒタマへ。

⑦段）「諸仏，各ノ所-安ニ随タマへ。

⑧佼）「諸仏，各所安(しよあん)に随給(したがひ)へ。

[47] 多宝仏塔還可如故」。

①龍）多宝仏塔は，還（り）て故(モト)の如（く）います可（し）。」と。

②立）多宝仏塔は，還（り）て故(本也)の如クイマス可(へ)シ。」ト。

③光）多宝仏塔，還テ故(モト)ノ如クシタマフ可(へ)シ。」ト。

④瑞）多宝仏塔，かへてもとのことくし給ふへし。」と。

⑤妙）多宝仏塔，かへりてもとのことくましますへし。」。

⑥倭）多宝仏塔，還テ故(モト)ノ如クナル可シ。」。

⑦段）多宝仏ノ塔，還テ故(モト)ノ如クシタマフ可シ。」。

⑧佼）多宝仏の塔，還(かへつ)てもとのごとくし給ふべし。」。

[48] 説是語時。

①龍）是（の）語を説（き）たまひし時に，

②立）是の語を説（き）タマフ時に，

③光）是ノ語ヲ説タマフ時ニ，

④瑞）このことをといたまふときに，

⑤妙）この語をときたまふとき，

⑥倭）是ノ語説キタマフ時ニ，

⑦段）是ノ語(ミコト)ヲ説タマフ時［訓］，

⑧佼）このみことを説給ふ時に，

[49] 十方無量分身諸仏坐宝樹下師子座上者。

①龍）十方の無量の分身の諸仏（の），宝樹下の師子座の上に坐（し）たまひし者（と），

②立）十方の無量の分身の諸仏の，宝樹下の師子の座の上へに坐シタマヘル者，

③光）十方無量ノ分身ノ諸仏ノ，宝樹下ノ師子座ノ上ニ坐タマヘル者，

④瑞）十方の無量の分身の諸仏，宝樹下の師子の座のうへに坐したまへるもの，

⑤妙）十方の無量の分身の諸仏の，宝樹下の師子の座のうへに坐したまへるもの，

⑥倭）十方ノ無量ノ分身ノ諸仏，宝樹下ノ師子座ノ上ニ坐シタマヘル者，

⑦段）十方無量ノ分身ノ諸仏ノ，宝樹ノ下ノ師子ノ座ノ上ニ坐タマヘル者，

⑧佼）十方の無量の分身の諸仏の，宝樹の下の師子の座の上に坐し給へる者，

[50] 及多宝仏。

①龍）及（ひ）多宝仏（と）

②立）及多宝仏

③光）及多宝仏

④瑞）およひ多宝仏

⑤妙）およひ多宝仏

⑥倭）及ヒ多宝仏

⑦段）及ヒ多宝仏

⑧佼）及多宝仏

[51] 并上行等無辺阿僧祇菩薩大衆。

①龍）并（せ）て上行等の無辺阿僧祇の菩薩大衆（と），

②立）并（せ）て上行等の無辺阿僧祇の菩薩大衆，

③光）并テ上行等ノ無辺阿僧祇ノ菩薩大衆，

④瑞）あはせて上行等の無辺阿僧祇の菩薩大衆，

⑤妙）あはせて上行等の無量阿僧祇の菩薩大衆，

⑥倭）并ニ上行等ノ無辺阿僧祇ノ菩薩大衆，

⑦段）并ニ上行等ノ無辺阿僧祇ノ菩薩大衆，

⑧佼）并に上行等の無辺阿僧祇のぼさつ大衆，

[52] 舍利弗等声聞四衆。

①龍）舍利弗等の声聞四衆（と），

②立）舍利弗等の声聞四衆，

③光）舍利弗等ノ声聞四衆，

④瑞）舍利弗等の声聞四種，

⑤妙）舍利弗等の声聞四衆，

⑥倭）舍利弗等ノ声聞四衆，

⑦段）舍利弗等ノ声聞四衆，

⑧佼）舍利弗等の声聞四衆，

[53] 及一切世間天人阿修羅等。

①龍）及（ひ）一切世間の天・人・阿修羅等，

②立）及一切世間の天・人・阿修羅等，

③光）及一切世間ノ天・人・阿修羅等，

④瑞）およひ一切世間・天・人・阿修羅等，

⑤妙）をよひ一切世間・天・人・阿修羅等，

⑥倭）及ヒ一切世間ノ天・人・阿修羅等，

⑦段）及ヒ一切世間ノ天・人・阿修羅等，

⑧佼）及一切世間の天・人・阿修羅等，

[54] 聞仏所説皆大歓喜。

①龍）仏の所説を聞（きたま）へて，皆大（き）に歓喜しき。

②立）仏の所説を聞（き）タマへて，皆大に歓喜しき。

③光）仏ノ所-説ヲ聞タマヘテ，皆大ニ歓喜シキ。

④瑞）仏の所説をきゝたまへて，みなおほきに歓喜しにき。

⑤妙）ほとけの所説をききたまへて，みなおほきに歓喜しき。

⑥倭）仏ノ所説ヲ聞テ，皆ナ大ニ歓喜ス。

⑦段）仏ノ所説ヲ聞タテマツリテ，皆［訓］大［訓］ニ歓喜ス。

⑧佼）仏の所説を聞奉て，皆大に歓喜す。